

しお ざき
塩 崎 遺 跡 群 (8)

－ 町屋敷地点 －

いし かわ じょう り
石 川 条 里 遺 跡 (9)

－ 市道篠ノ井南64号線地点 －

1995・3

長野市教育委員会

序

平成5年3月、「高速道路」長野自動車道・上信越自動車道の開通は長野市にとって高速交通網社会の到来を感じさせる出来事でありました。また1998年長野冬季オリンピックの開催に向けての施設建設や従来停滞していた道路整備などに伴う工事も着々と進み、長野市の景観も徐々に変わりつつあります。しかしながらその一方で、地下に保存されてきた歴史遺産である埋蔵文化財が、これら開発工事の犠牲となって失われつつあることも忘れてはならないでしょう。私たちはその開発工事によって失われてしまう埋蔵文化財の保護・保存という大きな責務を担っております。

本書に所収しております2遺跡は、長野盆地南部に位置する集落遺跡と水田遺跡であり、ともに市内を代表する大規模な遺跡として知られております。今回の調査範囲は遺跡の全体からすればわずかな面積に過ぎませんが、発掘調査の実施によって貴重な遺構と遺物が出土しています。地域史解明における一助としてお役にいただければこの上ない喜びであります。

最後になりましたが埋蔵文化財保護に対する深いご理解とご協力を賜りました関係諸氏と、発掘作業に携わっていただきました地元の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成7年3月

長野市教育委員会
教育長 滝澤忠男

しお ざき
塩 崎 遺 跡 群 (8)

- 町屋敷地点 -

1995・3

長野市教育委員会

例言

- 1 本書は、グリーン長野農業協同組合が施行する「JAグリーン長野・篠ノ井塩崎字町屋敷宅地造成事業」に先立ち、平成6年度に記録保存を目的として実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。
併せて、昭和58年度に隣接地において実施された「塩崎児童館建設事業」に先立つ発掘調査記録についても所収した。
- 2 「JAグリーン長野・篠ノ井塩崎字町屋敷宅地造成事業」に先立つ発掘調査は、グリーン長野農業協同組合代表理事組合長と長野市長との間で委託受託契約を締結し、長野市教育委員会が実施したものであり、業務は長野市埋蔵文化財センターが担当した。
「塩崎児童館建設事業」に先立つ発掘調査は、長野市福祉部家庭児童課（現児童福祉課）の主管により、長野市教育委員会を経由して長野市遺跡調査会に調査業務が委託されたものである。
- 3 発掘調査地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「塩崎遺跡群」範囲内に位置し、字名に拠って「町屋敷地点」として報告するものである。各事業所在地は次のとおりである。
「JAグリーン長野宅地造成事業」：長野市篠ノ井塩崎字町屋敷3351-2、3354-3
「塩崎児童館建設事業」：長野市篠ノ井塩崎字町屋敷3302
- 4 発掘調査における現地作業の期間は次のとおりである。
「JAグリーン長野宅地造成事業」：平成6年12月12日～同年12月26日
「塩崎児童館建設事業」：昭和58年10月11日～同年10月27日
- 5 調査によって得られた諸資料は、長野市教育委員会（埋蔵文化財センター担当）で保管している。

目次

例言・目次	II 調査の成果
I 塩崎遺跡群と調査の経過	1 JAグリーン長野宅地造成に伴う調査
1 塩崎遺跡群……………1	(1) 概要……………5
2 塩崎児童館建設事業……………2	(2) 遺構……………7
3 JA・塩崎字町屋敷宅地造成事業……………2	(3) 遺物……………9
4 調査体制……………3	2 塩崎児童館建設に伴う調査
	(1) 概要……………13
	(2) 遺構……………15
	(3) 遺物……………18

挿 図 目 次

図 1	遺跡群周辺の地形と発掘調査位置	1
図 2	調査地周辺の地形と発掘調査位置	2
図 3	J A グリーン長野 調査区全体図	5
図 4	J A グリーン長野宅地造成 遺構実測図	6
図 5	J A グリーン長野宅地造成 土器実測図	10
図 6	J A グリーン長野宅地造成 土器実測図	11
図 7	J A グリーン長野宅地造成 石器その他実測図	12
図 8	塩崎児童館建設 遺構実測図	14
図 9	塩崎児童館建設 土器実測図	20
図 1 0	塩崎児童館建設 土器実測図	21
図 1 1	塩崎児童館建設 土器実測図	22
図 1 2	塩崎児童館建設 土器実測図	23
図 1 3	塩沢児童館建設 土器実測図	24
図 1 4	塩崎児童館建設 石器その他実測図	25

I 塩崎遺跡群と調査の経過

1 塩崎遺跡群

長野市南部の篠ノ井地区に広がる千曲川左岸の氾濫原には、大規模な自然堤防が発達している。この自然堤防上は、水稲耕作が本格化して以来このかた居住域として利用された結果、濃密な集落遺跡の分布地帯となっている。これら同一の地形上に立地する連続的な遺跡の分布範囲を「遺跡群」と呼称することし、自然堤防を横断する聖川を境として北側の範囲を「篠ノ井遺跡群」、南側の範囲を「塩崎遺跡群」としている。調査地は、この塩崎遺跡群のほぼ中央部に位置し、「町屋敷遺跡」あるいは「塩崎小学校敷地遺跡」とも呼ばれた一角にあたる。



図1 遺跡群周辺の地形と発掘調査位置(1:13,000)

1. 中部電力鉄塔地点
2. 市営塩崎体育館地点
3. 市道山崎橋偏線地点
4. 大規模自転車道地点
5. 聖川堤防地点
6. 市道角間線地点
7. 塩崎小学校地点
8. 町屋敷地点(JAグリーン長野宅地造成)
9. 市道松節小田井神社線地点
10. 市道篠ノ井南253号線地点

2 塩崎児童館建設事業

昭和58年度、長野市福祉部家庭児童課主管による社会福祉施設整備事業として、市立塩崎小学校敷地内の塩崎保育園西側隣接地において児童館建設が計画された。塩崎小学校敷地(塩崎字町屋敷3302)は、周知の埋蔵文化財包蔵地「塩崎遺跡群」範囲内にあり、過去においては、老朽校舎改築事業に伴う発掘調査が昭和52年度から3か年にわたって実施され、弥生時代中期以降の各時代に属する遺構が多数確認されている(長野市教委1978「塩崎遺跡群」他)。当該児童館建設工事の着手に先立っては、過去の調査事例を踏まえて記録保存のための発掘調査の実施が必要と判断され、長野市教育委員会が組織する長野市遺跡調査会の担当によって昭和58年10月11日から10月27日までの間に現地作業が実施されたものである。

3 JAグリーン長野・篠ノ井塩崎字町屋敷宅地造成事業

平成6年度、塩崎保育園南側隣接地の畑地(塩崎字町屋敷3351-2-3354-3)において、グリーン長野農業協同組合を事業主体とした宅地造成事業が計画され、10月13日付で開発行為に関する事前協議の申出書が提出された。事業は宅地4区画約900㎡の造成と同区画進入のための開発道路築造であり、平成6年12月の着工が予定された。事業範囲は、周知の埋蔵文化財包蔵地「塩崎遺跡群」範囲内であり、隣接する塩崎小学校及び児童館における発掘調査事例から埋蔵文化財包蔵は確実であることから、施工に先立っては地下に影響の及ぶ開発道路範囲(幅員4.5m・延長35m・約150㎡)に関し、記録保存のための発掘調査実施が必要と判断された。グリーン長野農業協同組合と長野市教育委員会においては、工事及び発掘調査の実施について協議調整し、12月9日付で発掘調査委託契約を締結し、12月12日から12月26日までの間に現地作業が実施されたものである。

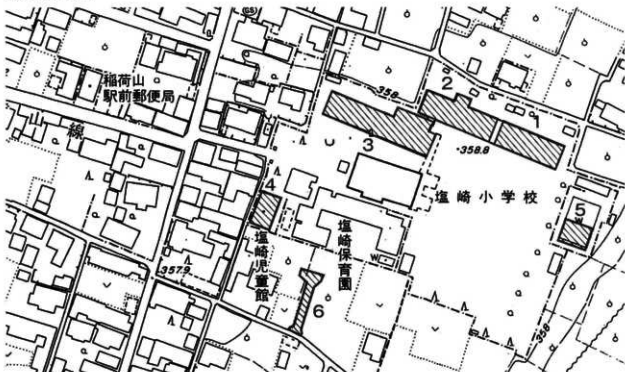


図2 調査地周辺の地形と発掘調査位置(1:2,500)

- 1.老朽校舎改築1次調査(昭和52年度)
- 2.同2次調査(昭和53年度)
- 3.同3次調査(昭和54年度)
- 4.児童館建設(昭和58年度)
- 5.水泳プール改築(平成3年度)
- 6.JAグリーン長野宅地造成(平成6年度)

4 調査体制

調査主体者	長野市教育委員会	教育長	滝澤忠男		
調査機関	長野市埋蔵文化財センター	所長	荒井和雄		
		主幹	鈴木貞男		
		所長補佐	山中武徳(兼庶務係長)		
		所長補佐	矢口忠良(兼調査係長)		
	庶務係	事務員	青木厚子	専門員	中殿幸子
	調査係	主査	青木和明		笠井敏子
		主事	千野 浩		山田美弥子
			飯島哲也		寺島孝典
			風間栄一		西沢真弓
			小林和子		田村直也
		専門主事	太田重成		田中由美子
			清水 武		
調査員	矢口栄子 青木善子				
調査作業員	内山直子 兼山忠晴 岸田武子 北沢やすい 北村利雄 塩原恵美子 島田茂子 清水節子				
	西沢乾 松崎とみ子 三宅計佐美 三宅利正 矢島喜和子 矢島秀子 山田令子 渡利悦子				
整理作業員	池田見紀 岡沢治子 徳成奈於子 西尾千枝 向山純子 武藤信子				
遺構測量委託	有限会社写真測図研究所				

長野市教育委員会埋蔵文化財センター担当による発掘調査の遂行においては、多くの方々のご支援をいただいている。発掘調査事業の委託者であるグリーン長野農業協同組合におかれは、埋蔵文化財保護に対する深いご理解とご協力により、円滑に調査事業を実施できるようご配慮を賜った。深甚なる謝意を表するものである。



調査地の近景(宅地造成地から南側の塩崎小学校敷地に向かって撮影、正面が保育園、左端が児童館)

平成6年12月12日、JAグリーン長野宅地造成地点において、バックホーダンプ等による表土除去作業に着手する。



12月14日、作業員による遺構検出作業を開始する。15日からは堅穴住居跡等の遺構の掘り下げに順次移行する。



12月21日、遺構の掘り下げをほぼ終了し、全体清掃の上写真撮影を実施する。

22日には測量作業に着手し、26日までに現地における全ての作業を終了する。



II 調査の成果

1 JAグリーン長野宅地造成に伴う調査

(1) 概要

調査地では比較的深い位置にまで耕作が及んでいる状況があり、地表下1m近くまでが耕作土層(均質な褐色シルト層)となっている。その下には耕作の及ばない比較的粘質な黄褐色シルト層が存在し、同層の上面を遺構検出面として確認作業を実施した結果、竪穴住居8軒、溝1本の存在を確認した。南北に延びる約30mの路線のなかでは、北端の範囲に竪穴住居が集中的に分布し、中央部分においては竪穴住居1軒と大形溝が確認されるものの、南へ向かっての遺構分布は疎となっている。この大形溝を境として北側に、古墳時代後期から平安時代にかけての集落が展開している可能性が示唆される。

なお、遺構検出面とした黄褐色シルト層中には弥生土器が包含され、調査区北端の平安時代住居床下から弥生時代住居の一部が確認されたことから、下層に存在する弥生時代所属の遺構が未検出のままとなった可能性が高い。



調査区全景(北から)



調査区全景(東から)

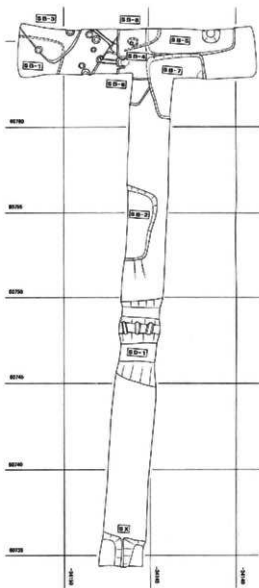


図3 JAグリーン長野 調査区全体図



調査区全景(北西から)



調査区全景(西から)

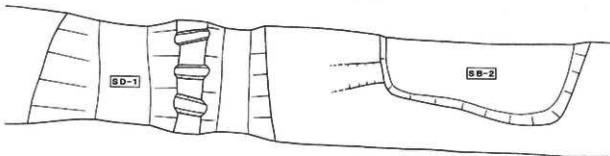
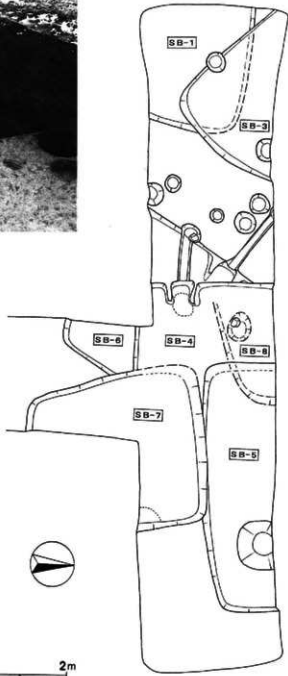


図4 JAグリーン長野宅地造成 遺構実測図(180)

(2)遺構

① 竪穴住居

1号住居(SB-1)

SB-3が重複し、北東部分が同住居の床下に位置する。全形・規模は不明であり、床面もやや不明瞭となる。遺物出土量は少なく、土器の他に砥石の出土がある。奈良時代の所産と判断する。

2号住居(SB-2)

調査地中央部に単独で位置する。東半部のみを検出であるが、一辺4.4mの方形と推定され、床面は平坦で堅緻となる。遺物出土量は少ないが、古墳時代後期に属する須恵器蓋等が完形に近い形で床面から出土している。

3号住居(SB-3)

SB-1に重複して位置する。形態・規模は不明であり、床面も判然としな。遺物出土量も少なく時代判定は不確かながら、奈良時代の所産と判断している。

4号住居(SB-4)

SB-6・8に重複して位置し、東側はSB-5・7の重複によって失われている。床面は平坦で堅緻、西壁の南寄りにカマドが構築され、長1.2mの煙道が西に伸びる。遺物出土量は多く、平安時代に属する土師器・須恵器杯が豊富である。土器以外としては、金銅製金具の出土が特筆される。

5号住居(SB-5)

SB-4・8に重複して位置し、南壁際がSB-7によって切込まれている。一辺5mを超えるやや大形の住居と考えられ、床面は軟弱で凹凸が観察される。遺物出土量は多く、平安時代に属する土師器・須恵器杯が豊富である。土器以外としては、弥生時代磨製石鏃未成品の混入出土がある。

6号住居(SB-6)

SB-4等が大きく重複するが、一辺3.4mを確認し、やや小形の住居といえる。北西壁にカマドが構築され、壁外に1.5m程度の煙道が伸びる。遺物出土量は少ないが、奈良時代所属の須恵器杯等が確認され、鉄製品破片の出土も見ている。



SB-1・3(北から)



SB-2(北西から)



SB-6・4カマド付近(南から)



SB-4～8重複状態(北西から)

7号住居(SB-7)

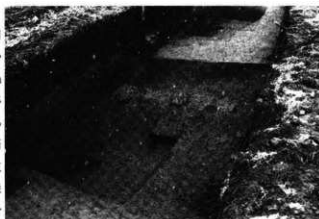
5軒が重複したSB-4～8の中では一番新しい住居であり、一辺3.5m内外の方形を呈す。床面は貼り床でやや軟弱、東壁に焼土の集積が認められることからカマドの存在が想定できる。遺物出土量は多く、墨書を含む平安時代須恵器杯が豊富である。土器以外に鉄製品破片の出土も見ている。

8号住居(SB-8)

SB-4・5床下に位置し、床面・壁の一部分を確認したに留まる。床面は凹凸を有するもの堅緻である。遺物出土量は僅かであるが、弥生後期に属する浅鉢出土が確認され、弥生期の遺構として唯一の検出例となる。

② 溝(SD-1)

調査地中央部に単独で位置し、幅員4.2～5.2m、東西方向に走る溝と判断した。検出面から20cm程の深さで2条に分かれて掘り込まれ、底面までの深さは南側で65cm、北側で50cmを測る。覆土は均質なシルト層であり、流水の痕跡は観察されない。出土遺物量は豊富であり、弥生から平安時代に至るまでの各種土器破片が出土している。なお、2条の底面を隔てる掘り残り部分の上面は幅50cmの平坦面となり、竪穴住居の床面にも似た堅緻な面が形成されるとともに、幅30cm深さ10cm程度の小溝が3条掘り込まれている。何らかの意図を感じさせるものであるが、性格不明といわざるを得ない。



SD-1(南東から)

遺構名 (記号)	時代 (期)	遺 構		出 土 土 器			その他出土遺物 石器・金属製品他	遺物注記 (記号)
		形態・施設・規模	備 考	重量(g)	実測数	特記		
1号住居 (SB-1)	奈良	方形?	SB-3が重複	1,265	2		磁石	SZJA-3・7
2号住居 (SB-2)	古墳 後期	方形? 4.4×?m		1,598	6			SZJA-4・16 ・22
3号住居 (SB-3)	奈良 ?	方形?	SB-1に重複	1,227	9			SZJA-8
4号住居 (SB-4)	平安	方形?西壁カマド	SB-6.8に重複 SB-5.7が重複	3,802	7		頁岩剥片 金銅製金具	SZJA-9・13 ・18・21
5号住居 (SB-5)	平安	方形? ?×5.2m	SB-4.8に重複 SB-7が重複	4,918	18		磨製石鏃未成品 頁岩剥片2	SZJA-10・ 15・27
6号住居 (SB-6)	奈良	方形?西壁カマド ?×3.4m	SB-8に重複 SB-4.5.7が重複	213	3		鉄製品破片	SZJA-17・ 23
7号住居 (SB-7)	平安	方形、東壁カマド 3.8×3.4m	SB-4～6に重複	3,530	10		黒曜石剥片 鉄製品破片	SZJA-20・ 25
8号住居 (SB-8)	弥生 後期	?	SB-4～6が重複	460	1			SZJA-26
1号溝 (SD-1)	平安 ?	復員 4.2～5.2m 溝2本複合?		8,939	11		黒曜石剥片 鉄鏃	SZJA-5・11 ・14・24
検出面		不明遺構 (sx) を含める		5,597	0		磁石、黒曜石剥片 軽石、土鏃	SZJA-1・2 ・6・12・15
合計				35,149	58			

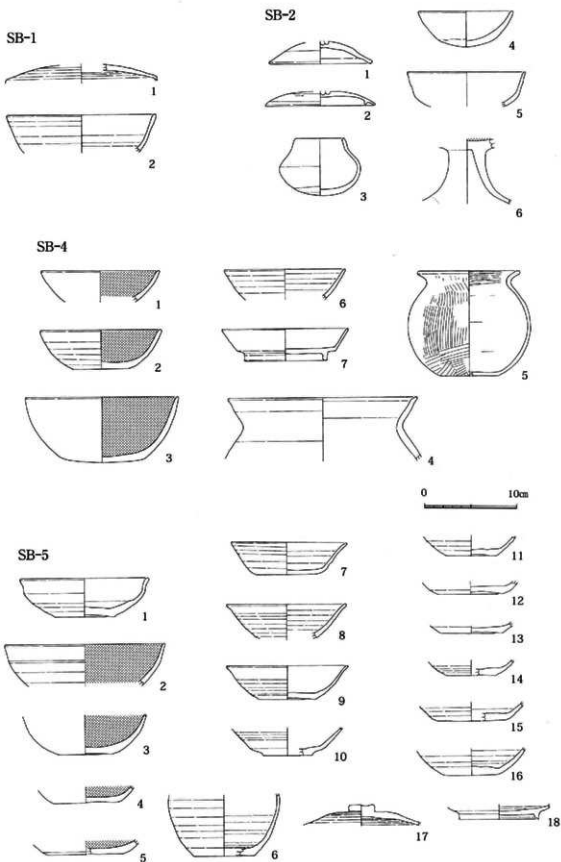
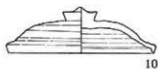
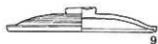
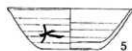
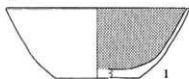
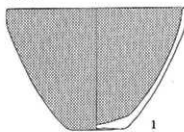


図5 JAグリーン長野宅地造成 土器実測図①(1:4)

SB-7



SB-8



SD-1

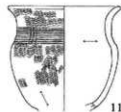
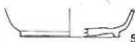
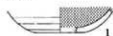


図6 JAグリーン長野宅地造成 土器実測図②(1:4)

② 石器・その他の遺物(図7)

土器以外の遺物として、石器(剥片を含む)・土製品・金属製品が出土している。

帯金具の一部と考えられる金銅製品(2)は周縁部を欠くものの、表面に鍍金が良好に遺存し、毛彫りによる区画線が観察される。片側の紙の裏面に付着する小片は裏板の一部であろうか。

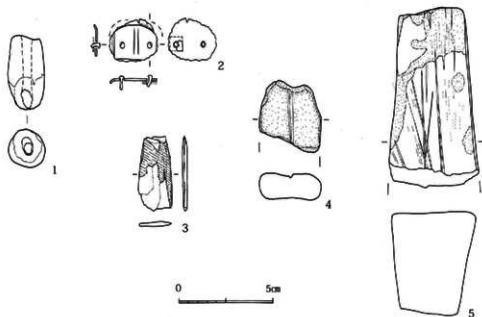


図7 JAグリーン長野宅地造成 石器その他実測図(1:2)

1-土鉢(検出面出土) 2-金銅製金具(SB-4出土) 3-磨製石鎌未成品(SB-5出土)

4-砥石(検出面出土) 5-砥石(SB-1出土)

2 塩崎児童館建設に伴う調査

(1) 概要

竪穴住居9軒、土坑7基、方形周溝溝1基、柱穴群の存在を確認した。出土遺物から明確に時代を把握できる遺構は、古墳後期から奈良・平安時代にかけての所産であり、JAグリーン長野宅地造成地点での傾向と一致している。この他、古墳時代前期に属すると推定される方形周溝溝と、弥生時代に属する竪穴住居・土坑が存在するが、遺構の形態や出土遺物に不明瞭な部分が多く、あくまで推定の域を出ていない。なお、各遺構からの出土遺物及び遺構検出に際しての出土遺物中には、比較的多くの弥生土器が含まれている状況があり、未確認の弥生時代遺構が存在していた可能性が高いと判断することが妥当であろう。調査時点で地下水水位が高く湧水処理に苦慮したこともあり、遺構の検出確認作業が不十分であったことに起因するものである。調査地一帯には、弥生時代中期から後期にかけての遺構も多く存在していることを想定しておきたい。

遺構名 (記号)	時代 (期)	遺 構		出 土 土 器			その他出土遺物	遺物注記 (記号)
		形態・施設・規模	備 考	重量(g)	実測数	特記	石器・金属製品他	
1号住居 (SB-1)	古墳 後期	方形 5.2×?m	SB-3・7に重複	1,354	3			SZ IV SB1
2号住居 (SB-2)	奈良	方形 4.6×?m		3,124	5			SZ IV SB2
3号住居 (SB-3)	奈良	方形 北壁カマド 4.2×?m	SK-6等土坑群が重複	3,706	9			SZ IV SB3
4号住居 (SB-4)	奈良	方形 西壁カマド 4.4×?m	SB-5に重複	17,550	20		磁石 2	SZ IV SB4
5号住居 (SB-5)	弥生?	円形? 径 2.8m	SB-4が重複	1,119	0			SZ IV SB5
6号住居 (SB-6)	奈良	方形 西壁カマド 4.2×3.9m	SB-7が重複	6,081	3			SZ IV SB6
7号住居 (SB-7)	平安	方形 3.1×2.9m	SB-6に重複	6,085	21		丸柄(床土10cm出土)	SZ IV SB7
8号住居 (SB-8)	平安	方形? 北壁カマド	SB-9が重複	3,225	2			SZ IV SB8
9号住居 (SB-9)	平安	方形 北壁カマド 3.3×?m	SB-8・方形周溝に 重複	6,703	11			SZ IV SB9
1号土坑 (SK-1)	平安	長楕円形 2.3×0.7m	墓?	1,265	6			SZ IV SK1
2号土坑 (SK-2)	平安	不整形 2.7×1.8m		8,675	18			SZ IV SK2
3号土坑 (SK-3)	平安	楕円形?	SB-1が重複 SK-7に重複	226	0			SZ IV SK3
4号土坑 (SK-4)	?	円形 径 0.7m		92	0			SZ IV SK4
5号土坑 (SK-5)	平安	長方形 1.6×1.0m	SB-3に重複	258	0			SZ IV SK5
6号土坑 (SK-6)	奈良?	不明		412	0			SZ IV SK6
7号土坑 (SK-7)	弥生?	不整形	SK-3が重複	172	0			SZ IV SK7
方形周溝	古墳 前期?	一辺9m以上 溝幅2~1.7m	SB-9・SK-1が重複	5,104	6			SZ IV SDZ
柱穴群	?			2,265	0			SZ IV P1~
SK-2付近 一括出土	弥生 後期	不明		1,851	2			SZ IV
調査区北西 一括出土	平安	不明	SK-4上層遺物の可 能性あり	413	3			SZ IV
検出面				34,905	10		磁石 2、滑石製品 凹石、剥片	SZ IV
合計				104,585	119			

塩崎児童館建設 遺構一覧表

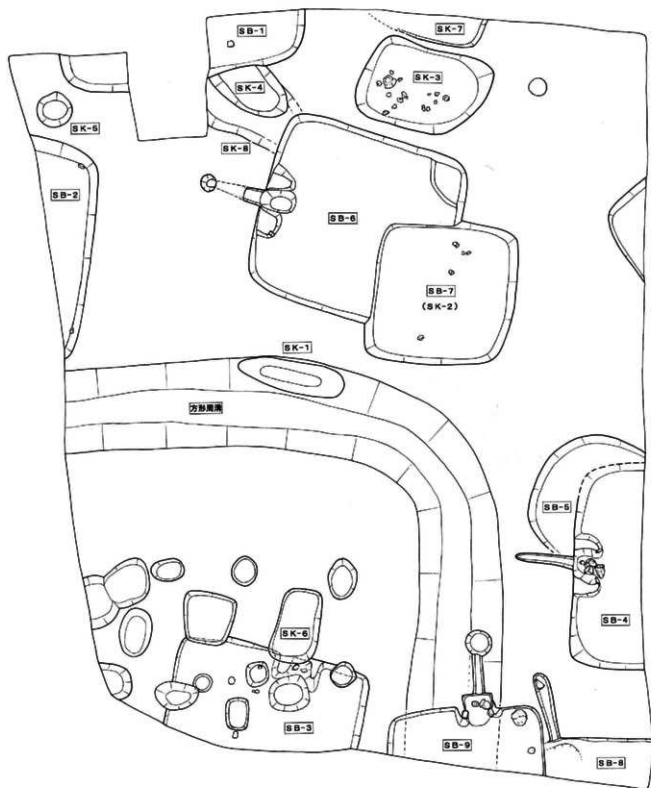


图8 塩崎児童館建設 遺構尖測図(1:80)

(2) 遺 構

① 竪穴住居

1号住居(SB-1)

調査区北西隅近くに位置し、SK-3・7に重複する。南壁部分のみの検出であり、作業通路によって東西に分断されているため、全形は不明であるが、一辺5.2mの方形と推定され、床面は明瞭堅緻である。遺物出土量は少ないが、古墳時代後期の土器が確認されている。



S B - 3 (南から)

2号住居(SB-2)

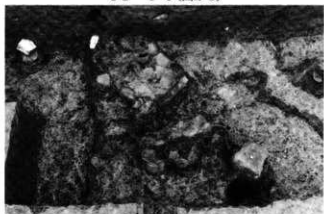
調査区北西に位置し、北東隅から東壁部分にかけての範囲が検出され、一辺4.6mの方形と推定される。遺物出土量は少ないが、奈良時代須恵器杯等の完形個体の出土を見ている。



S B - 4・5 (西から)

3号住居(SB-3)

調査区南に位置し、SK-6及び柱穴群が重複する。北半部のみの検出であるが、一辺4.2mの方形と推定される。北壁中央からやや東寄りにカマドが構築されるが、SK-6の重複によって遺存状態は良好ではない。カマド周辺を中心とした床面付近から比較的多くの奈良時代所産の遺物出土がみられるが、破片個体が多い。



S B - 4 カマド付近(西から)

4号住居(SB-4)

調査区東に位置し、SB-5に重複する。西半部のみの検出であるが、一辺4.4mの方形と推定され、床面はSB-5重複部分も含めては貼り床により構成されて堅緻である。西壁中央付近に構築されるカマドは、焚口袖部分に石芯が用いられ、壁外に1.5m程度の煙道が伸びる。カマド内及びその前面から長胴甕5個体の他、多量の土器が遺棄された状態で検出されている。土器出土量は他遺構に比較して群を抜いて多く、奈良時代に属する良好な資料となる。



S B - 5 (S B - 4 の床下・南西から)

5号住居(SB-5)

SB-4が重複し、一部は同住居の床下に位置している。掘込・形態とも不明瞭であるが、円形と推定され、最大径2.8mを確認する。出土遺物から弥生中期の所産である可能性が示唆される。

6号住居(SB-6)

SB-7が重複して南東隅が失われているものの、ほぼ全形が検出確認されている。4.2×3.9mの方形で、床面は壁際を除いて堅緻である。西壁中央付近にカマドが構築され、壁外に伸びる煙道の遺存状態は良好であり、長さ1.3m、煙出しの立ち上がり部分は径30cmの円形となる。出土遺物は比較的少なく、土器小破片が大半であるが、奈良時代の所産と判断される。



S B - 6 (東から)

7号住居(SB-7)

SB-6に重複して位置し、全形が検出確認されている。やや小形な方形竈穴で、規模3.1×2.9m、床面はやや軟弱、カマド施設は確認されていない。出土遺物は比較的豊富であり、平安時代土師器・須恵器杯などの良好な出土を見ている。土師器杯には墨書有するものが3点含まれる。また、床面直上から鈎板「丸鞘」が出土しており特記される。



S B - 6・7 (北東から)

8号住居(SB-8)

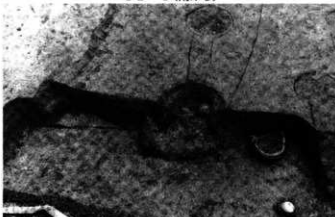
調査区南東に位置し、SB-9が重複している。北壁付近のみの検出であり、さらに重複によって西側部分が失われているため、規模・形態は不明である。北壁にカマドが構築され、壁外に煙道が1.5m伸びることが確認できるが、遺存状態は悪い。遺物出土量も少なく、平安時代土器小破片がほとんどである。



S B - 8 (南から)

9号住居(SB-9)

SB-8及び方形周溝墓に重複して位置する。北半部のみの検出であるが、一辺3.3mの方形と推定される。北壁中央からやや東寄りに構築されたカマドは、遺存状態が良好である。焚口の袖部分には石芯を用い、燃烧室は壁外に掘り込まれて方形に張り出す。さらに煙道が1.30m壁外へ伸び、煙出しの立ち上がり部分は径50cm程の円形に掘り込まれている。なお、カマド内には自然石を据え置いた支脚が遺存する。遺物出土は比較的豊富であり、カマド内およびカマド横床面から完形に近い平安時代土器等が検出されている。



S B - 9 (南から)

② 土坑

1号土坑(SK-1)

方形周溝墓に重複して位置する。2.3×0.7mの長楕円形で、比較的豊富に平安時代土器が出土している。墓坑である可能性が示唆される。

2号土坑(SK-2)

調査区北でSB-6・7と接して位置する。2.7×1.8mの不整形な掘込で、炭化物を多く含んだ覆土中から多量の平安時代土器が投棄された状態で出土している。土器は平安時代須恵器・土師器杯が主体であり、完形に近い個体も含まれている。その様相からSB-7との連関が示唆される。

3号土坑(SK-3)

SK-7に重複、北側がSB-1に切り込まれて位置し、幅1mほどの楕円形と推定される。遺物出土は少量に留まるが、弥生時代の所産である可能性が認められる。

4号土坑(SK-4)

径70cmの円形、遺物出土は微量であり、所属時期は不明である。

5号土坑(SK-5)

SB-3カマド部分に重複して位置する。1.6×1.0mの長方形であり、遺物出土は少量に留まる。平安時代に所属する可能性が認められる。

6号土坑(SK-6)

調査区北側において僅かに検出され、形態・規模は不明である。遺物出土は少量に留まるが、奈良時代の所産である可能性が認められる。

7号土坑(SK-7)

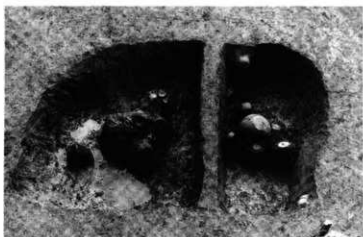
SK-3が重複し、形態・規模は不明である。僅かに出土している遺物から弥生時代の所産である可能性が認められ、SK-3と一連の遺構となることも考慮される。

③ 方形周溝墓

調査区南西側に検出された大形の屈曲溝であり、その規模と形状から方形周溝墓の可能性を考えたものである。溝の幅員は2~1.7m、検出面からの深さは1mを測る。ただし、覆土が基盤層に近い黄褐色シルトを主体とするため、壁面及び底面の検出は不確かなものとなっている。全形を推し量る根拠が欠くが、方形周溝である場合には



SB-9カマド(右:断割り、左:完掘)



SK-2(北から)



方形周溝墓・柱穴群(北東から)



SK-2付近弥生土器一括出土(北から)

一辺10mを超える大形周溝墓となろう。遺物出土量は規模に比較して少量であり、弥生土器小破片が目立つ。直接遺構に伴う遺物を特定することが困難な状況であるものの、覆土上層から出土した古墳時代前期土器の一群にその可能性が認められ、当該遺構の構築年代を示していると判断した。

④ 柱穴群

調査区南西に位置し、SK-5等の土坑も含めて集中分布する状況から、互いに連関をもった小穴群として認識したものである。掘立建物の可能性も考慮されるが、軸が揃わず柱間もやや長大に過ぎる。奈良時代の所産と考えられるSB-3に重複していることから、平安時代以降の掘込であることが想定されよう。

⑤ その他(遺物の一括出土)

遺構検出作業中に、調査区北東のSK-2に近接した位置から、弥生後期に属する土器2個体が完形に近い状態で出土している。遺構として検出認識するに至っていないが、何らかの遺構に伴っての遺物であった可能性が高いと判断される。

調査区北西の一角からは、平安時代須恵器・土師器杯等が完形土器を交えて一括出土している。ほぼ位置を同じくして下層からSK-4が検出されていることから、同道構の覆土上層中の遺物である可能性が指摘できる。

(3) 遺物

① 土器(図9～13)

各遺構と検出面から出土した土器の総量は104kgを量る。その中で、実測の対象とした個体は、径が概ね1/4以上が遺存することを条件として抽出し、119点を図示した。なお、表中「遺存」は図示した範囲についての遺存割合であり、完形を「完」、ほぼ完形を「略」、それ以外は「1/4・1/3・1/2・2/3」のいずれかで表示している。

遺構名	No	種別	器種	遺存度	特記	遺構名	No	種別	器種	遺存度	特記	
1号住居 (SB-1)	1	須恵器	杯	1/3	ヘラ切底	4号住居 (SB-4)	4	土師器	杯	2/3	内黒 ミガキ→磨止ケズリ底	
	2	須恵器	高台杯	1/4			5	土師器	杯?	略	ミガキ調整	
	3	土師器	鉢	1/2	ケズリ成形		6	土師器	鉢	1/2	内黒 ミガキ調整	
2号住居 (SB-2)	1	土師器	杯	略	ミガキ調整		7	土師器	高杯	略	杯内黒	
	2	須恵器	杯	完	ヘラ切底		8	土師器	高杯	略	杯内黒	
	3	須恵器	杯	略	ヘラ切底		9	須恵器	杯	略	ヘラ切底	
	4	須恵器	蓋	略			10	須恵器	杯	1/3	ヘラ切底	
	5	須恵器	高台杯	1/3			11	須恵器	杯	1/3	ヘラ切底	
3号住居 (SB-3)	1	須恵器	杯	1/4	ヘラ切底		12	須恵器	杯	1/4	ヘラ切底	
	2	須恵器	杯	略	ヘラ切底		13	須恵器	杯	1/4	ヘラ切底	
	3	須恵器	高台杯	1/4			14	須恵器	高台杯	1/4		
	4	須恵器	高台杯	1/4			15	土師器	甕	略	ハケ調整	
	5	須恵器	高台杯	1/3			16	土師器	甕	略	ハケ調整	
	6	須恵器	蓋	1/2			17	土師器	甕	完	ハケ調整	
	7	須恵器	蓋	1/3			18	土師器	甕	完	ハケ調整	
	8	須恵器	高杯	略			19	土師器	甕	完	ナデ調整	
	9	土師器	甕	1/2	ミガキ調整		20	土師器	甕	略	ナデ調整	
4号住居 (SB-4)	1	土師器	杯	2/3	内黒 ミガキ→磨止ケズリ底		6号住居 (SB-6)	1	須恵器	蓋	1/4	
	2	土師器	杯	1/4	内黒 ミガキ調整			2	須恵器	杯	1/2	ヘラ切底
	3	土師器	杯	略	内外黒 ミガキ調整			3	須恵器	杯	1/4	回転ケズリ底

塩崎児童館建設 実測土器一覧表①

遺構名	No.	種別	器種	遺存度	特 記	遺構名	No.	種別	器種	遺存度	特 記
7号住居 (SB-7)	1	灰彩	椀	1/4	口縁端折り返し状	2号土坑 (SK-2)	1	須恵器	杯	2/3	糸切底 火押
	2	須恵器	蓋	1/2			2	須恵器	杯	略	糸切底
	3	須恵器	鉢	1/3	糸切底		3	須恵器	杯	略	糸切底
	4	須恵器	杯	2/3	糸切底		4	須恵器	高台杯	略	
	5	須恵器	杯	1/2	糸切底		5	須恵器	高台杯	1/2	内黒 回転ケズリ底
	6	須恵器	杯	1/2	糸切底		6	土師器	杯	1/2	内黒 回転ケズリ底
	7	土師器	杯	2/3	墨書 内黒 糸切底		7	土師器	杯	略	内黒 回転ケズリ底
	8	土師器	杯	2/3	墨書 内黒 糸切底		8	土師器	杯		内黒 回転ケズリ底
	9	土師器	杯	1/4	墨書 内黒		9	土師器	杯	完	内黒 糸切→回転ケズリ底
	10	土師器	杯	1/2	内黒 回転ケズリ底		10	土師器	杯	2/3	内黒 糸切→回転ケズリ底
	11	土師器	杯	略	内黒 回転ケズリ底		11	土師器	杯	2/3	内黒 糸切→回転ケズリ底
	12	土師器	杯	2/3	内黒 糸切底		12	土師器	杯	2/3	内黒 回転ケズリ底
	13	土師器	杯	2/3	内黒 糸切底		13	土師器	杯	1/2	内黒 回転ケズリ底
	14	土師器	杯	1/2	内黒 糸切底		14	土師器	杯	1/4	内黒 糸切底
	15	土師器	杯	1/4	内黒 糸切底		15	土師器	杯	略	内黒 糸切底
	16	土師器	杯	略	内黒 糸切底		16	土師器	杯	2/3	内黒 糸切底
	17	土師器	杯	1/3	内黒 糸切底		17	土師器	鉢	略	内黒 静止ケズリ底
	18	土師器	小壺	1/4	外面力キメ調整		18	土師器	壺	1/3	
	19	土師器	小壺	2/3		調査区 北西 一括出土 (SK-4)	1	土師器	杯	1/4	内黒 糸切→回転ケズリ底
	20	土師器	小壺	1/3			2	土師器	杯	略	内黒 糸切底
	21	土師器	壺	1/4	外面力キメ調整		3	須恵器	杯	完	耳皿?
8号住居 (SB-8)	1	土師器	杯	略	内黒 静止ケズリ底	方形周溝	1	土師器	小形丸底	1/4	ミガキ調整
	2	須恵器	鉢	1/4	タタキ成形		2	土師器	器台	略	ミガキ調整
9号住居 (SB-9)	1	須恵器	杯	完	糸切底		3	土師器	壺	2/3	ミガキ調整
	2	須恵器	杯	2/3	静止ケズリ底		4	土師器	壺	2/3	ミガキ調整
	3	須恵器	蓋	略			5	土師器	壺	2/3	ハケ調整
	4	須恵器	蓋	1/3			6	土師器	壺	1/2	ハケ調整
	5	須恵器	蓋	1/3		SK-4 付近 一括出土	1	弥生	台付壺	略	柳描文
	6	須恵器	高台杯	1/4			2	弥生	高杯	完	赤色塗彩
	7	須恵器	高台杯	1/4			1	須恵器	杯	2/3	ヘラ切底
	8	須恵器	高台杯	1/4			2	須恵器	杯	1/2	ヘラ切底
	9	須恵器	高杯	略			3	須恵器	杯	1/2	ヘラ切底
	10	須恵器	鉢	2/3	タタキ成形		4	須恵器	杯	2/3	ヘラ切底
	11	土師器	小壺	完	ナ字調整		5	須恵器	杯	1/3	糸切底
1号土坑 (SK-1)	1	土師器	杯	1/3	内黒 糸切底		6	須恵器	杯	1/4	糸切底
	2	土師器	杯	1/3	内黒 糸切底		7	須恵器	高台杯	1/2	
	3	土師器	杯	1/3	内黒 糸切底		8	須恵器	高杯	2/3	
	4	土師器	杯	1/3	内黒 糸切底	9	須恵器	鉢	1/4		
	5	須恵器	瓶	1/2		10	須恵器	鉢	1/4		
	6	灰彩	椀	1/2	軸ハケ塗り						

塩崎児童館建設 実測土器一覧表②

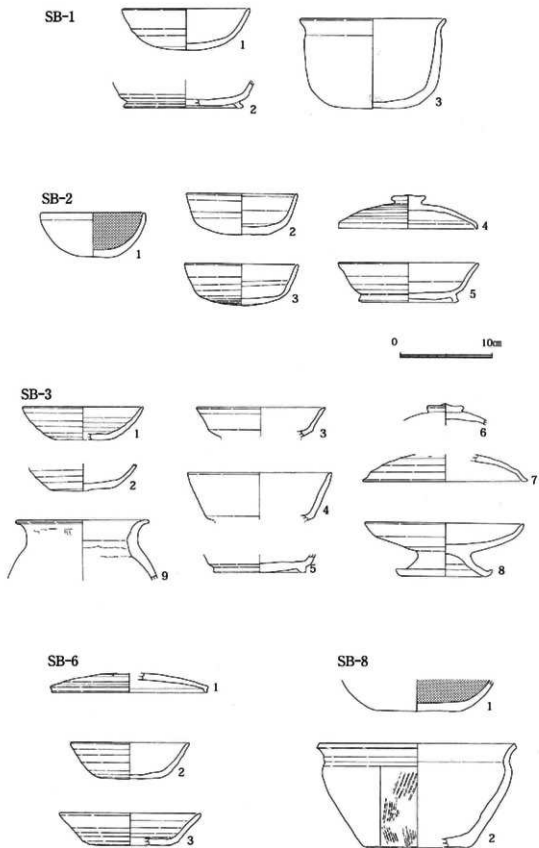


图9 塩崎児童館建設 土器実測图①(1:4)

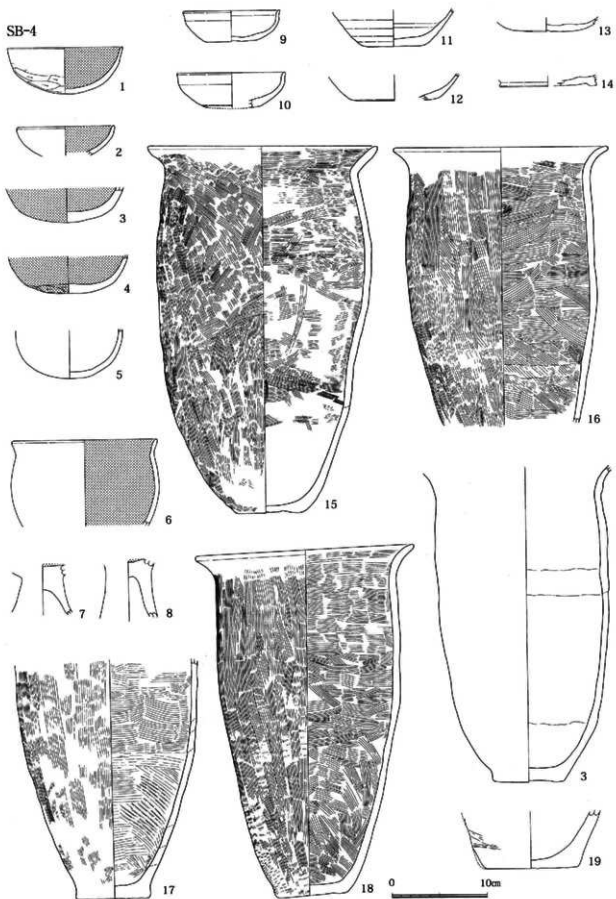


图10 塩崎児童館建設 土器実測図②(1:4)

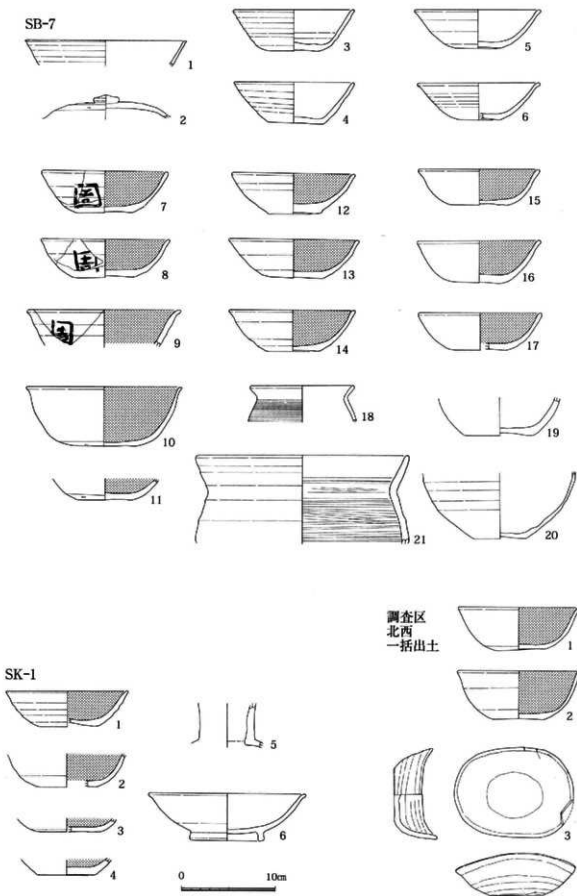


图11 塩崎児童館建設 土器実測図③(1:4)

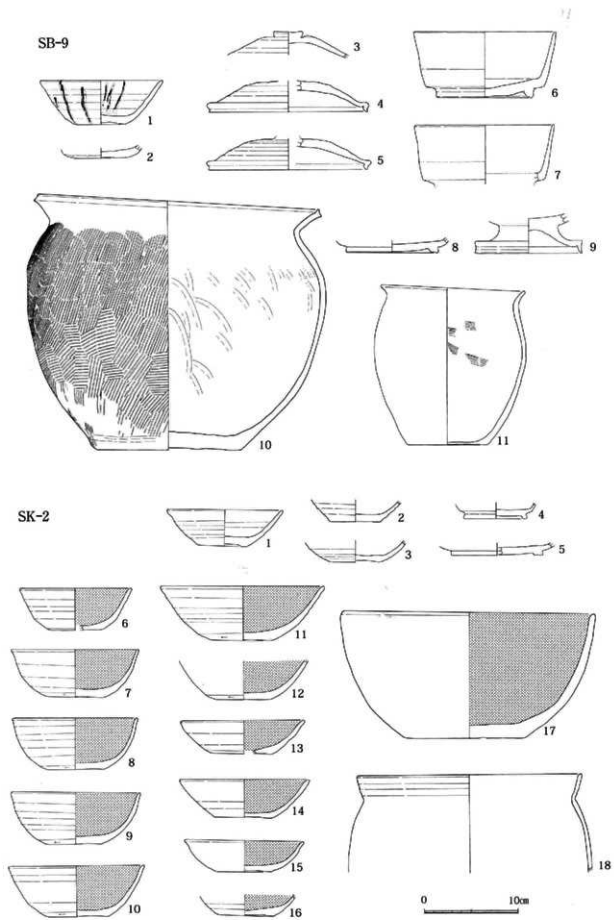
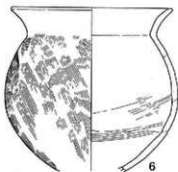
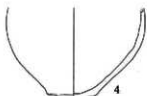
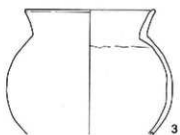
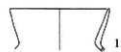
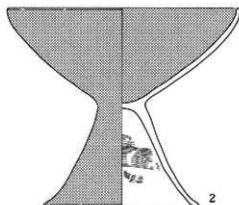
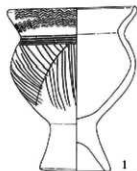


图12 塩崎児童館建設 土器実測图④(14)

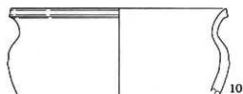
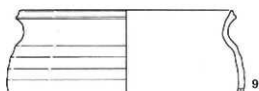
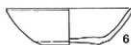
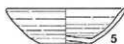
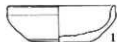
方形周溝



SK-2付近
一括出土



検出面



0 10cm

図13 塩崎児童館建設 土器実測図⑤(14)

② 石器・その他の遺物(図14)

土器以外の遺物として、石器(剥片を含む)・滑石製品・金属製品が出土している。
金属製品は帯金具の「丸鞘」であり、遺存状況を良好とした優品である。表面と側面が黒ずんでいることから、漆が塗布されていた可能性も考慮されるところとなる。

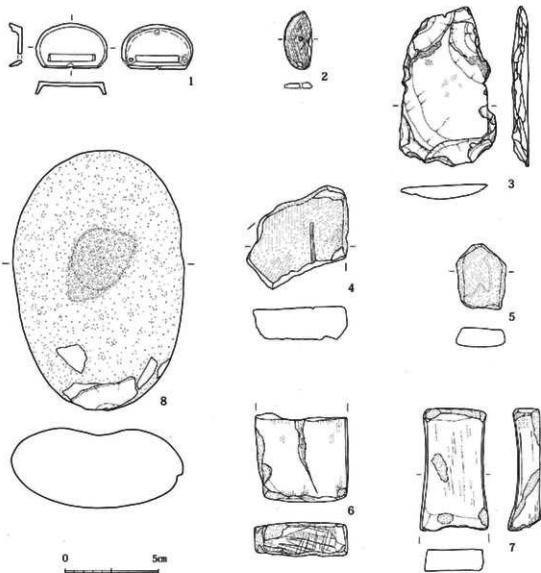


図14 塩崎児童館建設 石器その他実測図(1:2)

1-帯金具・丸鞘(SB-7出土) 2-滑石製品(検出面出土) 3-剥片(検出面出土)

4-5-砥石(SB-4出土) 6-7-砥石(検出面出土) 8-凹石(検出面出土)

いし　かわ　じょう　り
石　川　条　里　遺　跡　(9)

－ 市道篠ノ井南64号線地点 －

1995・3

長野市教育委員会

例 言

- 1 本書は、長野市が施行する「市道篠ノ井南64号線建設事業」に先立ち、平成6年度に記録保存を目的として実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、長野市総務部篠ノ井支所土木課の主管により、長野市教育委員会が実施したものであり、業務は長野市埋蔵文化財センターが担当した。
- 3 発掘調査地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「石川条里遺跡」範囲内に位置し、事業名に拠って「市道篠ノ井南64号線地点」として報告するものである。所在地は、長野市篠ノ井二ツ柳字神田2119他である。
- 4 発掘調査における現地作業の期間は、平成6年9月5日～同年9月22日である。
- 5 調査によって得られた諸資料は、長野市教育委員会(埋蔵文化財センター担当)で保管している。

目 次

例言・目次

I 石川条里遺跡と調査の経過	II 調査の成果
1 石川条里遺跡……………1	1 遺構……………4
2 市道篠ノ井南64号線建設事業……………2	2 遺物……………6
3 調査体制……………3	3 まとめ……………7

挿 図 目 次

図 1	遺跡群周辺の地形と発掘調査位置	1
図 2	調査地周辺の地形と発掘調査位置	2
図 3	遺構測量図	5
図 4	遺物実測図	6
図 5	水田遺構の条里的地割	7

I 石川条里遺跡と調査の経過

1 石川条里遺跡

長野市篠ノ井の西部域(石川・二ツ柳・塩崎)には、条里的地割を認める水田地帯が広く分布している。この現代に残された条里景觀も、昭和50年代から施行された一連の圃場整備事業によって、大半が過去のものとなったが、圃場整備等に伴う発掘調査の成果からは、現況水田の地下にも条里的地割に基づく平安時代等の水田遺構が広範囲にわたって埋没している状況が明らかとなり、埋蔵文化財包蔵地「石川条里遺跡」として周知されるに至っている。

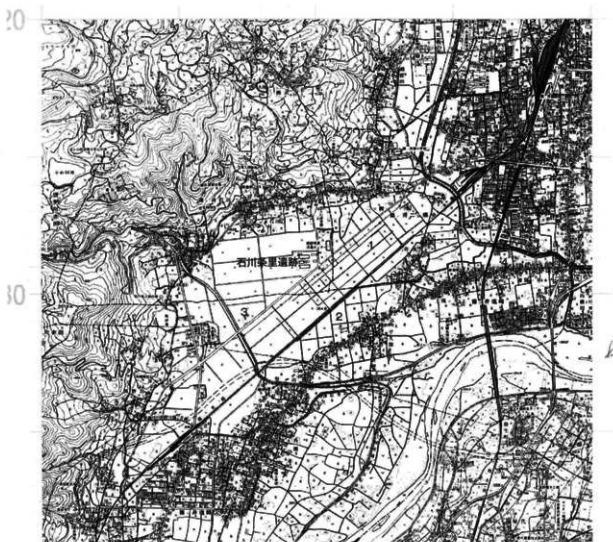


図1 遺跡群周辺の地形と発掘調査位置(1:25,000)

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1.川柳地区(団体営ほ場整備事業、S57～63) | 2.平久保地区(団体営ほ場整備事業、S60～63) |
| 3.篠ノ井西部地区(原営圃場整備事業、S62～H3) | 4.北野区画地区(長野市北野土地区画整理事業、H4) |
| 5.みこと川地区(原営みこと川団地建設事業、H4) | 6.市道篠ノ井南64号線地点(H6) |

2 市道篠ノ井南64号線建設事業

平成6年度、周知の埋蔵文化財包蔵地「石川条里遺跡」内の篠ノ井二ツ柳字神田・大当において、篠ノ井支所土木課担当によって篠ノ井南64号線建設事業(大当地下道改良工事)が計画された。同事業は、北陸新幹線が在来の信越本線に並列建設されることに伴い、既存の信越本線横断地下道を付替える必要が生じたために実施されるものであり、側道を含めた幅員10m延長80mの区間が新設路線として施工される計画にあった。信越線を挟んだ事業範囲の東隣接地においては、同じく新幹線建設事業に伴うみこと川団地建替等の工事に伴って平成4年度に発掘調査(長野市教委1993「石川条里遺跡7」)が実施され、平安時代埋没水田遺構の存在が確認済であったことから、地下道改良工事の着手に先立っては記録保存のための発掘調査実施が必要と判断された。

折しも一帯での北陸新幹線の本格着工を間近に控えた時期にあり、当該事業に関しても年度前半までに用地買収を終了し、10月にはJRへの委託によって着工が予定される工事日程の中で、用地取得終了後に速やかに発掘調査に着手する運びとなり、長野市教育委員会埋蔵文化財センターの担当によって平成6年9月5日から9月22日までの間に現地調査が実施されたものである。



図2 調査地周辺の地形と発掘調査位置(1:5,000)

- 1.長野市北野土地区画整理事業(平成4年度)
- 2.県営住宅みこと川団地建設事業(平成4年度)
- 3.市道篠ノ井南64号線建設事業(平成6年度)

3 調査体制

調査主体者	長野市教育委員会	教育長	滝澤忠男		
調査機関	長野市埋蔵文化財センター	所長	荒井和雄		
		主幹	鈴木貞男		
		所長補佐	山中武徳(兼庶務係長)		
		所長補佐	矢口忠良(兼調査係長)		
		庶務係 事務員	青木厚子		
		調査係 主査	青木和明	専門員	中殿章子
		主事	千野 浩		笠井敦子
			飯島哲也		山田美弥子
			風間栄一		寺島孝典
			小林和子		西沢真弓
		専門主事	太田重成		田村直也
			清水 武		田中由美子
調査作業員	内山直子 兼山忠晴 岸田武子 北沢やすい 塩原恵美子 鳥田茂子 清水節子 西沢乾 松崎とみ子 三宅計佐美 三宅利正 矢島喜和子 矢島秀子 山田令子				
遺構測量委託	有限会社写真測図研究所				



調査着手・表土除去



掘削作業・水田面検出



記録作業・遺構測量



発掘調査参加者

II 調査の成果

1 遺構

道路新設区間内で排出土砂の仮置場を確保する必要があったことから、区間を二分して片側を土砂置場として利用しながら掘削をすすめたため、調査範囲は東西に分割されている。それぞれ東区、西区と呼ぶこととする。

[西区]

地表下約1.1mに平安時代水田遺構が埋没している。水田面を被覆する砂層は厚さ30～40cmあり、遺構の遺存状態は良好である。水田面において南北方向の大畦畔と小畦畔を各1本検出している。

大畦畔は、幅員105～140cm、水田面からの比高は最大40cmを測り、頂部はやや平坦となるが断面はカマボコ形に近い。小畦畔は、幅員45～80cm、水田面からの比高は10cm内外と低平であり、水田面の起伏に紛れて形状は不明瞭に近い。大小畦畔はほぼ平行して配列され、その間隔は9.5m程度を測る。

水田面は一様に凹凸が著しい。凹凸の落差は5cm程度であり、それが連続しながら南北方向の畝状の起伏を形成している。この畝状の凹凸は、隣接のみこと川地区I・II区等においても明瞭に観察されたものであり、作付け時の足跡等の痕跡を示すものと推定されている。また、大畦畔東側には氾濫埋没時に水田面表層から移動堆積したと推定される粘土塊の集積が観察される。



西区・全景(西から)



西区・大畦畔と土層断面(南壁)



西区・小畦畔と水田面(北から)



西区・大畦畔(南から)

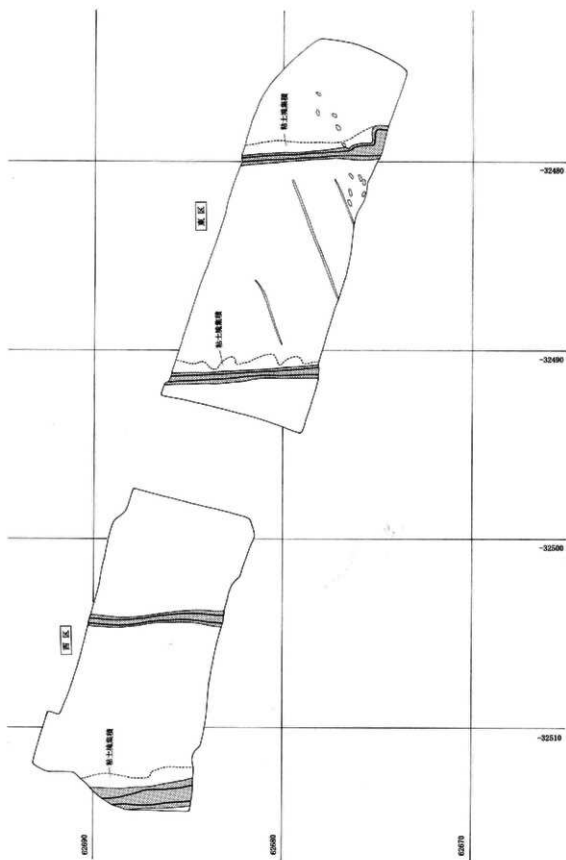


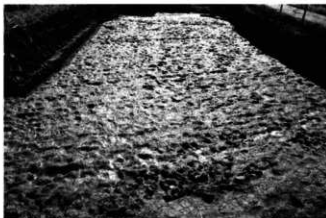
图3 遺構測量图(1:200)

[東区]

水田遺構の埋没状況は西区と同じく、遺構の遺存状態は良好であり、南北方向の小畦畔2本を検出している。

小畦畔は、幅員45～65cm、水田面からの比高は15cm程度であり、頂部は平坦で断面台形をなす。ほぼ平行して直線的に配列され、その間隔は11.5m程度を測る。また、西区の小畦畔との間隔は12.5m程度となる。

水田面の状態は、2本の小畦畔に画された3面のうちの西側水田面と東側水田面に畝状の凹凸が明瞭に観察されるものの、両畦畔に挟まれた中央の水田面のみは平坦面を呈して凹凸は形成されていない。また、同平坦面には東西方向に走る幅5～10cmの浅い溝状の切り込み3本と、足跡状の窪みが観察される。なお、2本の畦畔の東側には、粘土塊の集積が明瞭に検出されている。



東区・全景(西から)



東区・西側小畦畔(粘土塊の集積状態)



東区・全景(東から)



同上(粘土塊を除去した状態)

2 遺物

須恵器杯破片が畦畔内埋め込みの状態で出土している。約3分の1破片、色調は灰白色でやや軟質の焼成であり、内外面とも丁寧にロクロ調整され、底部は回転糸切溝をそのままに残す。

底面には比較的明瞭な墨書文字が観察され、「寺」と判読される可能性がある。



図4 遺物実測図(14)

3 まとめ

石川条里遺跡における平安時代埋没水田遺構については、過去の発掘調査成果から条里的地割の存在が確認されており、当該調査地に隣接するみこと川地区・北野区画地区における調査においては、平面直角座標台座系に基づく測量成果から条里的地割の復元が試みられ、座標北から4度30分西へ偏る基準線が指摘されるに至っている（長野市教委1993「石川条里遺跡(7)」）。今回の発掘調査成果をこの復元案に追加した図を提示してまとめたい。大畦畔の位置関係が、条里の1町区画想定線と整合している状況を追認することができる。また、今回検出された4本の南北方向畦畔がほぼ等間隔にあり、1町の10分の1(6歩)に近い数値を示している点にも注目しておきたい。小畦畔の区画が多様であるにせよ、基本的には条里的地割の枠内にあった可能性が示唆される。

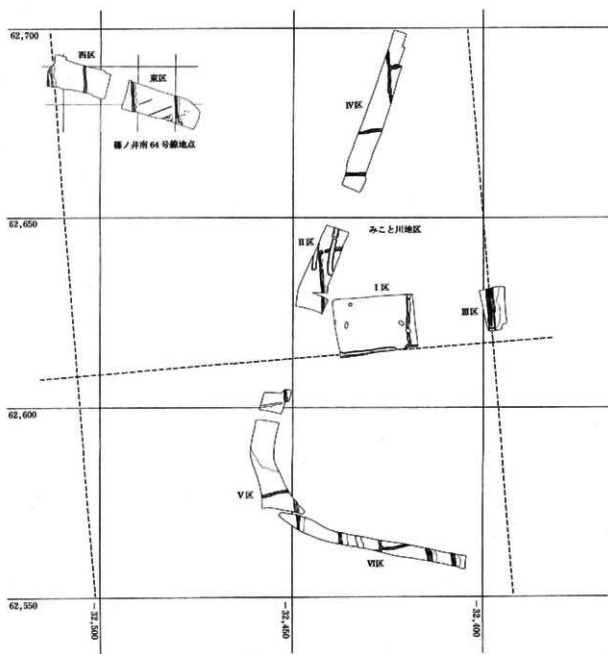


図5 水田遺構の条里的地割(1:1,000 破線は1町区画の想定線)

報告書抄録

ふりがな	しおがさいせきぐん・いしかわじょうりいせき							
書名	塩崎遺跡群(8)・石川条里遺跡(9)							
副書名	町屋敷地点・市道篠ノ井南64号線地点							
シリーズ名	長野市の埋蔵文化財							
シリーズ番号	第72集							
編著者名	青木和明							
編集機関	長野市教育委員会 長野市埋蔵文化財センター							
所在地	〒381-2212 長野県長野市小島田町1414番地 TEL 026-284-0004							
発行年月日	1995(平成7)年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
塩崎 遺跡群	長野県長野市 篠ノ井塩崎 字町屋敷	20201	E-④	36° 32' 48"	138° 7' 6"	19941212 ～ 19941226	340 ㎡	宅地造成
石川条里 遺跡	長野県長野市 篠ノ井二ツ柳 字神田	20201	E-①	36° 33' 50"	138° 8' 12"	19940905 ～ 19940922	370 ㎡	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
塩崎 遺跡群	集落	弥生～ 平安時代	竪穴住居 溝 土坑	弥生土器 土師器・須恵器・灰釉陶器 帯金具・砥石				
石川条里 遺跡	田畑	平安時代	水田 畦畔	須恵器				

長野市の埋蔵文化財第72集

塩崎遺跡群(8)

—町屋敷地点—

石川糸里遺跡(9)

—市道鎌ノ井南64号線地点—

平成7年3月24日 印刷

平成7年3月31日 発行

編集 長野市教育委員会

発行 長野市埋蔵文化財センター

印刷 西沢印刷株式会社